

かめのり大学院留学アジア奨学生

月次報告レポート

(2019年8月)

●研究進捗—RQ1：中国における高齢者の介護問題とは何か、その現状はどうなっているのか

6月に博士論文の全体構成について報告し、その中で、5つのリサーチクエスチョンを設定した。今回は、一番目のリサーチクエスチョンについて報告したいと思っている。

中国の介護保険に関する政策および議論では、中国の実情に応じた介護保険が構築されるべきであると強調されている。しかし、「実情」とは何か、その内容が必ずしも明確になっていないことを指摘する。そこで、RQ1は、高齢者の介護問題を切り口として中国の実情の一部を描き出すことを目的とする。

周知のように、中国の高齢化が進展しつつあり、それに伴って、要介護高齢者の人口および比率は増加する傾向にある。中国の要介護高齢者人口は、2006年の2,834万人から2015年の4,060万人まで増加し、高齢者人口の占める割合は、6.4%から12.54%に増加した。

要介護高齢者の介護ニーズが高まっているものの、これまで前提とされてきた家族介護の限界がみえてきた。1970年代から2015年まで施行されていた「一人っ子政策」の影響によって、「421家庭（4人の高齢者、2人夫婦、1人の子ども）」という逆ピラミッド構造が顕著化している。それに加えて、中国の世帯規模が縮小し、高齢者夫婦のみの世帯が増えている。二世帯同居の割合は、2000年の59.3%から2010年の47.83%に減少し、これは、老老介護や認認介護等の課題をもたらした。したがって、中国では伝統的な家族介護機能が弱まり、家族以外の介護の担い手が求められている。

家族以外の介護の担い手としては、地域と高齢者施設が挙げられる。中国政府の政策により、地域と高齢者施設サービスが整備されてきた。例として、2017年時点の高齢者施設のベッド数は744.8万床で、2006年（153.6万床）の約5倍であることを挙げる。しかしながら、整備されたサービスの稼働率が低いと指摘されている。調査データによると、2014年時点では、高齢者施設の利用率はわずか52%である。その要因として次の3つが挙げられる。

第一に、整備されたサービス（供給）と介護ニーズ（需要）間のミスマッチングである。高齢者施設の一部は、要介護高齢者を排除し、自立できる高齢者しか受け入れていない。

第二に、介護サービスの地域分布のアンバランスによって、介護サービスへのアクセスが難しいことである。中国の農村部と比べて都市部の介護サービスが整備されているが、農村部の要介護高齢者の割合は都市部より高い。

最後に、利用料は全額自己負担（貧困層高齢者除く）であるため、利用者またはその家族の経済負担が重い。

今後、いかにして要介護高齢者を対象とする介護サービスを整備し、利用者またはその家族の自己負担を軽減するかを検討する必要があると考えられる。

●生活状況

8月に、実習演習科目担当教員の資質向上を目的とする「社会福祉士実習演習担当教員講習会」

に参加しました。研修の8日間で、他大学の教員および大学院生とともに講義を聴き、グループワークを行いました。それを通じて、自分がいざ教壇に立ったときに、いかにして学生に理解しやすい講義を行うかを学ぶことができました。しかし、それはあくまでも理論的な学びで、実践に移る際に悪戦苦闘の日々を送ることになるでしょう。

そして、8月に今年の夏の研修交流会の資料を皆さんと共有しました。現役奨励生としての最後の研修ですので、皆さんと一緒にいる時間を大切に、良い報告をできるように努めてまいります。